

1 産地基幹施設等支援タイプ

(都道府県名:北海道 目標年度:令和4年度)

Table with columns for 市町村名, 事業実施主体名, 事業実施後の状況①, 事業実施後の状況②, 事業費, 負担区分(円), 完了年月日, 事業実施主体の評価, 都道府県の評価, 備考. Rows include 登別市, 月形町, 月形町, 月形町, 富良野市, 幌加内町, 網走市, 士幌町.

市町村名	事業実施主体名	メニュー① (対象作物・畜種等名)①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①								メニュー② (対象作物・畜種等名)②	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②								成果目標の具体的な実績② (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考	
				計画時	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後	目標値	達成率			計画時	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後	目標値	達成率			交付金	都道府県費	市町村費	その他					
				成果目標の具体的な内容①		成果目標の具体的な内容②		成果目標の具体的な内容①		成果目標の具体的な内容②				成果目標の具体的な内容①		成果目標の具体的な内容②		成果目標の具体的な内容①		成果目標の具体的な内容②				負担区分(円)								
滝川市	株式会社北栄ファーム	野菜(たまねぎ)	▼むき玉ねぎ供給量18.5tの増加	むき玉ねぎ供給量956.0t(H29-R1年)	むき玉ねぎ供給量1,016.9t(R2年)	むき玉ねぎ供給量1,059.5t(R3年)	むき玉ねぎ供給量976.0t(R4年)	-	-	むき玉ねぎ供給量974.5t(R4年)	108.2%	むき玉ねぎ供給量が20t増加した。	野菜(たまねぎ)	▼【野菜】 ▼(単位収量当たり労働時間の減) ▼労働時間が32.8%の削減	労働時間1.19h/100kg(H29-R1年)	労働時間1.22h/100kg(R2年)	労働時間0.92h/100kg(R3年)	労働時間0.79h/100kg(R4年)	-	-	労働時間0.80h/100kg(R4年)	102.6%	単位収量当たりの労働時間が50.4h減少した。	22,447,227	10,203,000		12,244,227	令和3年2月20日	むき玉ねぎの出荷量は令和3年と比較すると出荷先からの受注が伸びず前年を下回ったものの、最適な人員配属、作業ラインの効率化を図ることで作業性が改善され、むき玉ねぎの出荷量目標を達成することができた。また、本事業を活用し当初より能力の高い機械を導入することで単位処理量当たりの労働時間を削減することができた。	むき玉ねぎの供給量及び労働時間の削減の両方において、計画どおりの目標達成となった。		
富良野市	富良野地方卸売市場株式会社	野菜(たまねぎ)	▼供給量(剥き玉ねぎ製品出荷量)を670t増加	供給量623t(H30-R元年)	供給量391.5t(R2)	供給量843.5t(R3)	供給量1,299t(R4)	-	-	供給量1,293t(R4)	100.9%	R4.6~R5.5 1299tのむき玉葱を生産。剥き玉ねぎの生産量が670t増加した。	野菜(たまねぎ)	▼【野菜】 ▼(加工向け出荷割合の増) ▼剥き玉ねぎ出荷割合の5.0ポイント増	剥たま出荷割合7.0%(765t/9,736t)(H30-R元年)	剥たま出荷割合7.6%(818t/10,695t)(R2)	剥たま出荷割合8.9%(843t/9,502t)(R3)	剥たま出荷割合13.1%(1,299t/9,923t)(R4)	-	-	剥たま出荷割合12.9%(1,293t/10,000t)(R4)	103.2%	剥き玉ねぎ出荷割合が5.2ポイント増加した。	321,200,000	138,075,000		183,125,000	令和3年3月26日	天候等の影響もあり品質の劣化が見られたが、生産者と作付けから収穫まで密に連絡をとりながら進めてきた結果、集荷量が増加し目標を達成できた。	供給量、出荷割合ともに、成果目標を達成している。		
芽室町	ダイヤモント十勝(株)	国産原材料サプライチェーン構築(野菜(にんじん・たまねぎ・キャベツ・西洋わさび・かぼちゃ・ブロッコリー・スイートコーン))	▼【国産原材料】 ▼(中間業者間取引数量の増) ▼供給量を5,475t増加	供給量1,895t(H29-R元年)	供給量7,810t(R2年)	供給量10,402t(R3年)	供給量10,241t(R4年)	-	-	供給量7,370t(R4年)	152.4%	目標に対し、2.871tを上回り、達成率152%となった。	国産原材料サプライチェーン構築(野菜(にんじん・たまねぎ・キャベツ・西洋わさび・かぼちゃ・ブロッコリー・スイートコーン))	▼【野菜】 ▼(契約取引数量の増) ▼契約取引数量を152%増加	契約取引数量2,927t(H29-R元年)	契約取引数量7,810t(R2年)	契約取引数量10,402t(R3年)	契約取引数量10,241t(R4年)	-	-	契約取引数量7,370t(R4年)	164.6%	目標に対し、2,871tを上回り、達成率165%とできた。	343,367,300	142,641,000		200,726,300	令和3年3月31日	供給量と契約取引数量は大幅な達成。契約量作付面積は累計で達成。玉葱、カボチャは未達。認定農業者は達成。利用率利用率は、ほぼ達成。収入は累計では達成も北伏古が未達。収支率は累計では達成も北伏古が未達。昨今の栽培状況販売状況が芳しいとは言えない環境ではあったが、ほぼ目標を達成することができた。	成果目標は大幅に上回る形で達成されており、今後も事業効果の安定的な発現を期待する。		
幕別町	幕別町農業協同組合	土地利用型作物(豆類)	▼供給量を274,192kg増加	供給量1,097,280kg(H29-30年)	供給量1,168,530kg(R2年)	供給量1,565,670kg(R3年)	供給量1,359,210kg(R4年)	-	-	1,371,472kg(令和4年)	95.5%	供給量が261,90kg増加した。	土地利用型作物(豆類)	▼【豆類】 ▼(作付面積の増) ▼作付面積を51.1%増加	作付面積283,19ha(H24-30年)	作付面積408,14ha(R2)	作付面積509,38ha(R3)	作付面積508,82ha(R4)	-	-	作付面積428,01ha(R4)	155.8%	作付面積が約79.7%増加した。	79,750,000	36,250,000		18,125,000	25,375,000	令和3年1月29日	天候の影響などで単収の増加とはならなかったが、作付面積が大幅に増加したため、実績目標はおおむね達成できた。	作付面積の拡大は目標を達成しており、供給量の増加は目標未達となったことから、安定的な収量の確保に向けた肥培管理の徹底により今後の目標達成は可能と判断される。	
訓子府町	きたみらい農業協同組合	野菜(たまねぎ)	▼【野菜】 ▼(契約取引数量の増) ▼たまねぎの契約取引供給量を1,868t増加	契約取引数量5,686t(H28-30平均)	契約取引数量5,070t(R2年)	契約取引数量5,480t(R3年)	契約取引数量6,845t(R4年)	-	-	契約取引数量7,554t(R4年)	62.5%	目標7,554tに対し6,845tとなり達成率90.6%と未達成となった。	野菜(たまねぎ)	▼【野菜】 ▼(契約取引割合の増) ▼たまねぎの契約取引割合を5.94%増加	契約取引割合19.8%(H30年)	契約取引割合22.8%(R2年)	契約取引割合30.8%(R3年)	契約取引割合28.1%(R4年)	-	-	契約取引割合25.70%(R4年)	140.7%	契約取引割合が8.3ポイント増加した。	217,107,000	94,150,000		122,957,000	令和3年7月9日	施設を導入したことで、加工処理作業効率向上し、原料の保管状況が良くなったことで、実需者ニーズに対応できることで契約取引割合は計画時と比較して増加した。しかし、R4年産においては、一部地域(訓子府)で、悪天候により約500haほど荒廃したことが影響し、供給量を6,854tしか確保できず、達成率90.6%となった。ただし、荒廃した面積分の契約取引概算供給量の82tを加味すれば、7,675tとなるため目標は達成していた見込まれる。なお、契約取引割合については、契約供給量が計画時と比較して増加したことで、取引割合が8.3ポイント増加し、目標達成した。気象災害のない年であれば、目標値は達成できる見込みであるため、目標達成に向け実需者との供給量の維持・拡大を図ってきたい。	成果目標のうち「たまねぎの契約取引供給量を1,868t増加」については、未達成となったが、供給量の減少が悪天候による一過性のものであること、また、悪天候がなければ目標を達成できる見込みであることを数値として示すことができたため、来年度の達成が見込めるものと判断する。また、施設を導入したことで、加工処理作業効率向上し、原料の保管状況が良くなったことで、より多くの実需者ニーズに対応できるようになったことから、契約取引割合については、契約供給量が計画時と比較して増加したことで、取引割合が8.3ポイント増加し、目標達成している。		
苫前町	るもい農業協同組合(事業実施時：苫前町農業協同組合)	野菜(ミニトマト)	▼加工業務用ミニトマトの供給量を80.8t増加	供給量1.0t(H29-R元年)	供給量0.6t(R3年)	供給量8.7t(R3年)	供給量82.1t(R4年)	-	-	供給量81.8t(R4年)	100.4%	加工業務用ミニトマトの供給量が81.1t増加した。	野菜(ミニトマト)	▼【野菜】 ▼(加工向け出荷割合の増) ▼加工業務用ミニトマトの出荷割合を35.4ポイント増加	出荷割合0.5%(1.2t/231.7t)(R元年)	出荷割合0.3%(0.6t/179.0t)(R2年)	出荷割合4.8%(8.7t/180.1t)(R3年)	出荷割合37.0%(82.1t/221.8t)(R4年)	-	-	出荷割合35.9%(81.8t/227.7t)(R4年)	103.1%	加工業務用ミニトマトの出荷割合が35.6ポイント増加した。	63,800,000	29,000,000		14,500,000	20,300,000	令和3年6月10日	機械の導入により播種作業の効率化と、実需者との契約により目標年度である令和4年度は、加工業務用ミニトマトの供給量が82.1tとなり目標を達成することができた。また、ミニトマトの出荷量に対する加工業務用ミニトマトの割合も、全出荷量221.8tのうち加工業務用ミニトマトが82.1tで37.0%となり目標とする35.9%を達成することができた。次年度以降に向け、パウダー化した加工用ミニトマトでの商品開発など、さらなる販売推進と安定的な供給体制を構築していく。	目標年度である令和4年に、加工業務用ミニトマトの供給量及び出荷割合の目標値を達成できている。	